

「伝え、未来へ紡ぐ」

何年経っても忘れてはいけけない。
あの時の悲しみ、苦しみを
二度と繰り返さないように
私たちは、この記憶を風化させず、
伝え、未来へ紡いでいく。
無数の星が暗闇を照らすように
私たち一人一人の教訓が
未来を照らせるように。

祈りに包まれた一日



教訓を胸に、未来へ



当たり前前の日常が突然失われた日。
戦後最大の自然災害。その災害から
一日一日を一生懸命に生き抜いて
きた私たち。

復旧から復興へ。復興から創生へ。
13年という月日を経て、その歩みは
着実に進んでいます。しかし、年月
が進み、復興が進むことで、同時に
「記憶の風化」も進んでいます。

多くの命と希望が失われた日。
そして、さまざまな教訓を胸に刻
んだ日。その教訓を風化させず、次
代に伝え、未来へ紡いでいくことが、
今を生きる私たちの使命ではないで
しょうか。

東日本大震災を知らない、経験し
ていない子どもたちはこれからも増
えていきます。記憶と教訓を伝え、
防災への意識を心に深く刻む。同じ
ような悲しみを決して繰り返さない
ために。

震災から何年経とうが、今の日常
が当たり前ではないことを知ってい
る私たち。

だからこそ、未来へ。
この日があるから未来へ。



いつまでも忘れない

いわき市長

内田 広之

あの日から13年。

大震災で犠牲になられた御霊に
哀悼の誠を捧げます。月日は流れ
ても、災害の教訓をしっかりと継
承します。

能登半島地震、昨年の台風13
号、令和元年の台風19号など、近
年、災害は激甚化・頻発化してい
ます。

災害に強いまちづくり、人づく
りに取り組み「逃げ遅れゼロ」、
「災害死ゼロ」を果たすことこそ
御霊へのご供養でもあると、3・
11の節目に改めて強く認識しまし
た。